

<対策のポイント>

農福連携等の一層の推進に向け、障害者等の農林水産業に関する技術の習得、障害者等に農業体験を提供するユニバーサル農園※の開設、農福連携等を地域で広げるための取組、障害者等が作業に携わる生産・加工・販売施設の整備、全国的な展開に向けた普及啓発、都道府県による専門人材育成の取組等を支援します。

※ 農業分野への就業を希望する障害者等に対し農業体験を提供する農園

<事業目標>

農福連携等に取り組む主体数（12,000件 [令和12年度まで]）

<事業の内容>

1. 地域資源活用価値創出推進事業（農福連携型）

① 農福連携支援事業

障害者等の農林水産業に関する技術の習得、作業工程のマニュアル化、ユニバーサル農園の開設、移動式トイレの導入、農福連携等を地域で広げるための取組等を支援します。

【事業期間：上限2年間、交付率：定額（簡易整備、高度経営、介護・機能維持の場合は上限150万円/年、それ以外の場合は上限300万円/年、作業マニュアルの作成等に取り組む場合は初年度の額に40万円加算）】

② 普及啓発・専門人材育成推進対策事業

農福連携等の全国的な横展開に向けた取組、農福連携等の定着に向けた専門人材の育成等を支援します。

【事業期間：1年間、交付率：定額（上限500万円等）】

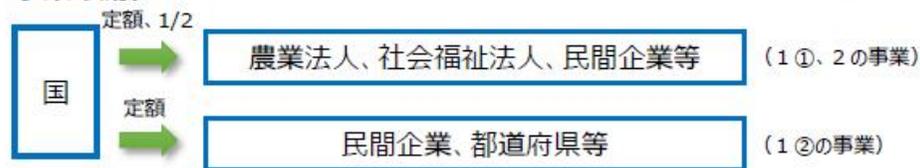
2. 地域資源活用価値創出整備事業（農福連携型）

障害者等が作業に携わる生産施設、ユニバーサル農園施設、安全・衛生面にかかる附帯施設等の整備を支援します。

【事業期間：上限2年間、交付率：1/2（簡易整備の場合は上限200万円、高度経営の場合は上限1,000万円、経営支援の場合は上限2,500万円、介護・機能維持の場合は上限400万円）】

※下線部は拡充事項

<事業の流れ>



<事業イメージ>

1. 地域資源活用価値創出推進事業（農福連携型）

① 農福連携支援事業



農産加工の実践研修 養殖籠の補修・木工技術の習得 移動式トイレの導入 ユニバーサル農園の開設

② 普及啓発・専門人材育成推進対策事業



普及啓発に係る取組 人材育成研修

2. 地域資源活用価値創出整備事業（農福連携型）



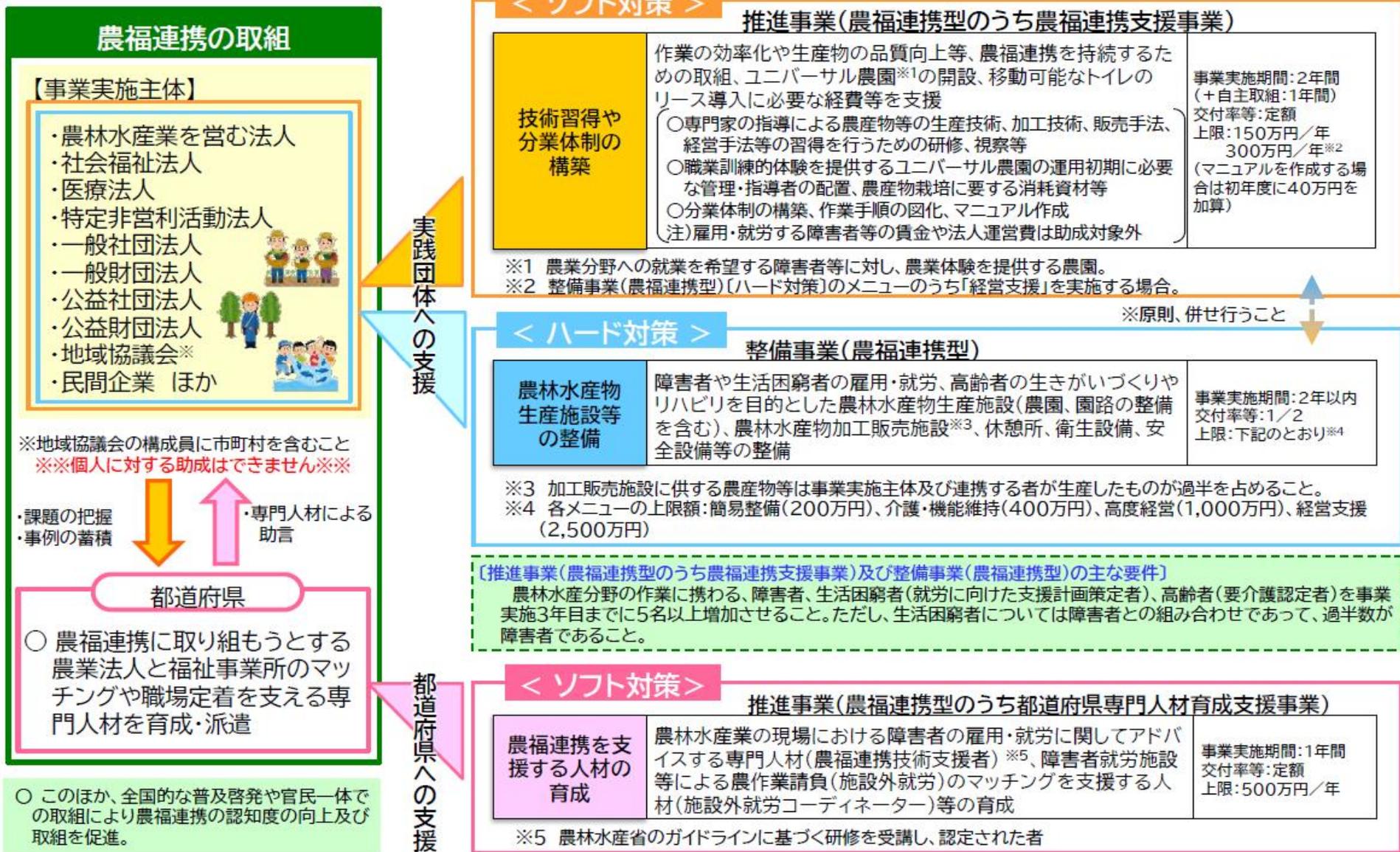
農業生産施設(水耕栽培ハウス) 苗木生産施設 養殖施設



休憩所、トイレの整備 園地、園路整備 処理加工施設

# (参考:令和6年度事業)農山漁村発イノベーション推進・整備事業(農福連携型)

- 農福連携に取り組む農業法人や福祉サービス事業者等に対するソフト・ハード一体的な支援
- 都道府県が行う専門人材の育成等を支援

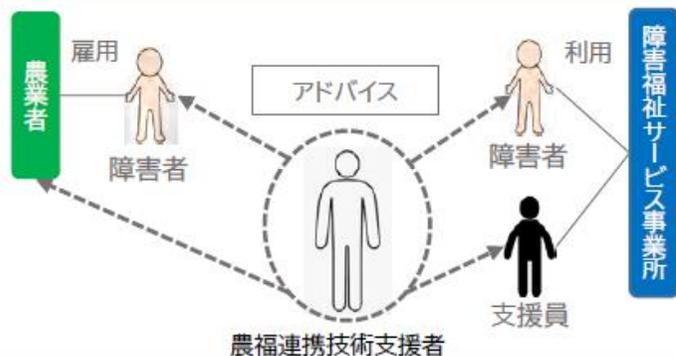


- 令和2年度から、「農福連携技術支援者育成研修」を全国共通の枠組みとして実施。
- 本研修は、農林水産省が農林水産研修所つくば館水戸ほ場で実施するほか、研修プログラムを農林水産省が策定した基準プログラムに準拠させることで、都道府県が実施することも可能。
- 農林水産省は、全ての研修課程を受講し、必要な知識と技術を身につけたと認められる者を研修修了者として認定。認定された者は、「農福連携技術支援者(農林水産省認定)」として、現場において障害者等に実践する手法を支援。
- これまでに全国で579名を認定。

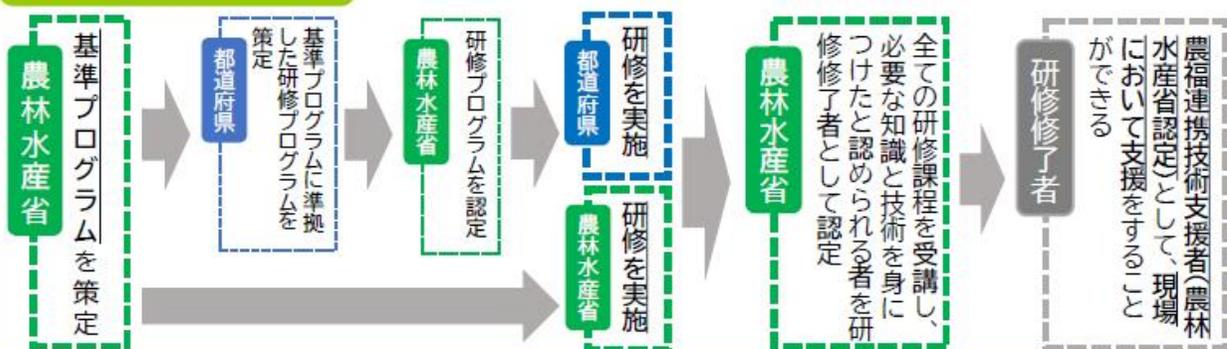
## 1. 育成する人材

### 農福連携技術支援者

- ① 農業者
  - ② 障害福祉サービス事業所の支援員
  - ③ 障害者本人
- の3者に対し、具体的に、農福連携を現場で実践する手法をアドバイスする人材。



## 2. 育成の枠組み



## 3. 基準プログラム

### 研修形式と期間

- (1) 座学講義3日間程度
- (2) 演習・実地研修4日間程度
- (3) 修了試験(農林水産省が作成)

### カリキュラム

- ・ 障害者雇用と障害福祉サービス事業の仕組み
- ・ 障害特性と職業的課題の基礎
- ・ 障害特性に対応した農作業支援技法
- ・ 農業者による農福連携の経営実務
- ・ 農作業における作業細分化・難易度評価の技法など

## 4. 研修の受講者

### 受講対象者

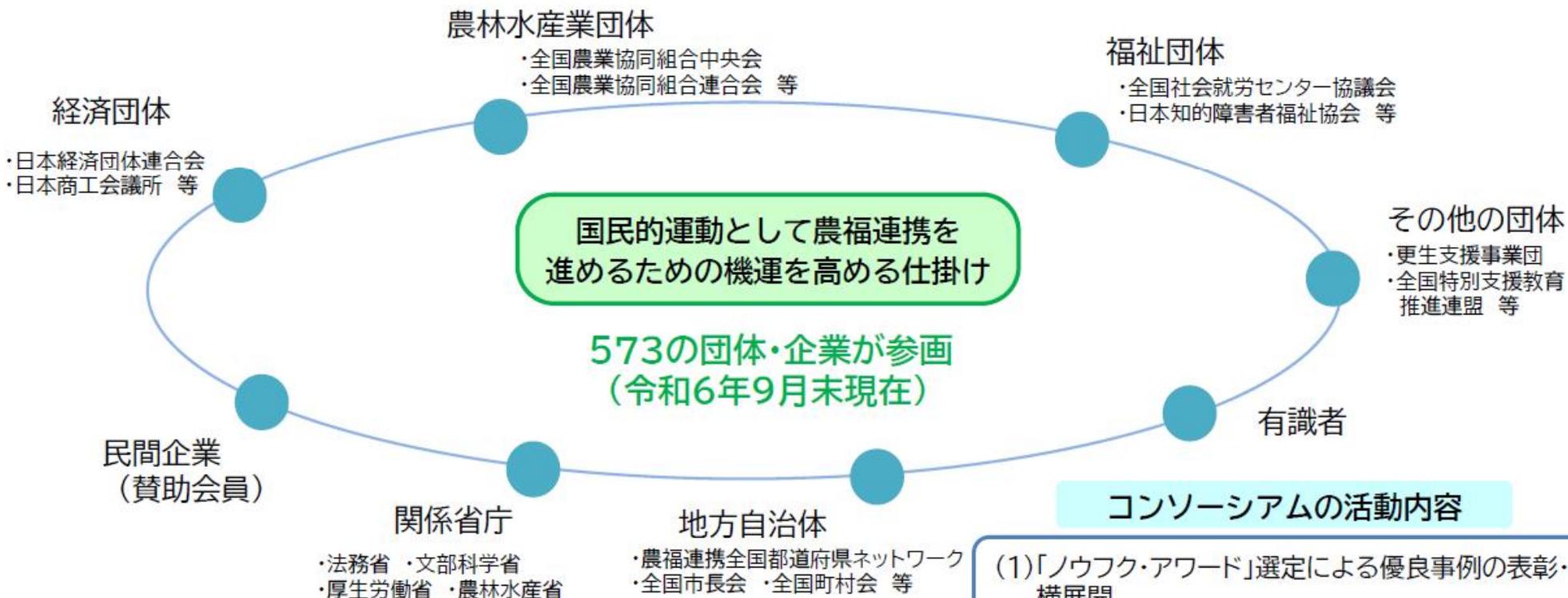
農業・福祉等の関係者を幅広く想定

### 受講定員

毎回につき20名程度

- 国、地方公共団体、関係団体等はもとより、経済界や消費者、更には学識経験者等の様々な関係者を巻き込んだ国民的運動として農福連携等を展開していくため、令和2年3月、各界の関係者が参加し、農福連携等を応援するコンソーシアムを設立。

## 農福連携等応援コンソーシアムの構成



コンソーシアム入会に関するお問合せ先  
農林水産省 農村振興局 農村政策部 都市農村交流課 農福連携推進室  
TEL:03-3502-0033  
<https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/noufuku/consso.html>

- 全国で農福連携に取り組む団体・企業や個人を募集し、農福連携の優れた取組をノウフク・アワードとして表彰。国民運動としての機運を高め、農福連携の全国的な展開につなげることを目的として開催。
- 令和2年度にノウフク・アワード2020を初開催し、「みんなで耕そう！」をスローガンに、「人を耕す」「地域を耕す」「未来を耕す」との観点から優れた取組を表彰。
- これまでの4年間で、のべ88件(40都道府県)が受賞。

## 取組概要

- ・応募対象:全国で農福連携に取り組んでいる団体等
- ・選定方法:「人を耕す」、「地域を耕す」、「未来を耕す」との観点から、優れた取組に対して以下の賞を授与  
「グランプリ」、「準グランプリ」、「優秀賞」  
「フレッシュ賞」(取組開始5年以内の優れた取組)  
「チャレンジ賞」(「農」や「福」の広がりに向けた取組)
- ・審査員: 中嶋 康博 ` 東京大学大学院農学生命科学研究科教授(審査員長)  
濱田 健司 ` 東海大学文理総合学部教授  
松森 果林 ` ユニバーサルデザインアドバイザー  
村木 厚子 ` 津田塾大学総合政策学部客員教授  
米田 雅子 ` 東京工業大学環境・社会理工学院特任教授
- ・主催:農福連携等応援コンソーシアム(事務局:農林水産省)



# 「ノウフク・アワード2023」表彰24団体

## No.1 長野県 松川町

### 株式会社ウィズファーム

- ・障害者の工賃向上をめざして農業法人を設立し、地域の荒廃農地を積極的に借り入れ、地域の中心的な担い手に成長
- ・ノウフクJASの初めての認証事業者として農福連携の認知度向上と販路拡大に貢献

グランプリ

## No.2 奈良県 奈良市

### 社会福祉法人青葉仁会

- ・農業のほか、加工業、販売業などの様々な業種の作業を通じて障害者の成長や経済的自立を支援し、40名以上が一般就労に移行
- ・過疎化が進む地域においてカフェ、レストラン、観光農園の運営、廃校の活用など、多角的に事業を展開

グランプリ

## No.3 広島県 広島市

### 広島県立広島特別支援学校

- ・生徒の障害特性ごとに配慮した農作業を指導
- ・近隣の農業高校から技術指導を受けて、学校内の圃場で農業を実施し、地域の高齢者に販売
- ・障害を持つ生徒が、地域の小学校で児童への農作業指導を実施

準グランプリ  
(人を耕す)

## No.4 福岡県 久留米市

### 一般社団法人THE CHALLENGED

- ・障害者、ひきこもりの状態にある者、触法者等の多様な人材が活躍できる環境を整備し、10名以上が一般就労に移行
- ・認定農業者として地域最大級の花き生産者となるとともに、地域の約170件の農家から受託した作業を障害者等が実施

準グランプリ  
(地域を耕す)

## No.5 福井県 あわら市

### 有限会社あわら農業ファーム

- ・全国に先がけてスマート農業を活用した農福連携（障害者がロボット田植機による田植えや、アシスト付コンバインによる稲刈り等を実施）を行い、農地面積は85haに拡大
- ・地域農家の農作業受託や除草作業を障害者等が実施

準グランプリ  
(未来を耕す)

## No.6 宮城県 松島町

### 有限会社F.F磯崎

- ・地域の就労継続支援A型事業所から、約20名の障害者を受け入れ、水稲栽培（約60ha）や牡蠣の養殖を実施

優秀賞

## No.7 茨城県 つくば市

### NPO法人ユアフィールドつくば

- ・約15haの荒廃農地を再生し、障害の種別や年齢も様々な約100名の障害者が農作業を実施

優秀賞

## No.8 岐阜県 岐阜市

### 株式会社LSふあーむ

- ・農業や6次産業化製品の製造などの各作業ごとに障害者の中からリーダーを任命しており、障害者が商品開発にも従事

優秀賞

## No.9 三重県 松阪市

### 社会福祉法人まつさか福祉会

- ・高収益のいちご栽培や6次産業化などにより、生活介護などの重度障害者を含めた工賃向上を実現。ASIAGAPも取得

優秀賞

## No.10 京都府 京都市

### 株式会社しんやさい

- ・職業訓練により正規雇用ステップアップした障害者が、ジョブコーチの資格を取得し、右手障害者の指導を実施

優秀賞

## No.19 東京都 世田谷区

### 夢育て農園

- ・農作業を通じた知的・発達障害者の認知発達プログラムを提供し、定量的な効果測定も実施

チャレンジ賞

## No.22 愛媛県 伊予市

### 愛媛県立伊予農業高等学校生活科学科食物班

- ・地域の福祉団体と連携して、障害者や高齢者と共に農作業を実施。地域企業と連携して新商品を開発

チャレンジ賞

## No.15 岐阜県 岐阜市

### 全国農業協同組合連合会岐阜県本部

- ・JA全農の直営農場において、直接雇用した障害者がいちご栽培を実施し、地域のいちご部会にも入会

フレッシュ賞

## No.17 宮崎県 高千穂町

### 株式会社杉本商店

- ・推奨専門問屋として、原木椎茸の栽培や加工を福祉事業所に委託し、23カ国に輸出

フレッシュ賞

## No.20 大阪府 高槻市

### 特定非営利活動法人たかつき

- ・認知症高齢者や要介護高齢者の生きがいづくりや、健康維持、増進に向けた園芸療法を実施

チャレンジ賞

## No.23 福岡県 福岡市

### 一般社団法人社会福祉支援協会

- ・人手不足で廃業寸前であった水産加工業会社の事業を承継し、障害者が担い手として作業に従事

チャレンジ賞

## No.11 岡山県 岡山市

### 株式会社おおもり農園

- ・新規就農後、自ら就労継続支援A型事業所を設立し、障害者に農作業を安定的に担ってもらうことで農地面積を拡大

優秀賞

## No.12 大分県 竹田市

### 社会福祉法人博愛会

- ・農業に加えて、コミュニティレストランの開設、交通手段を持たない高齢者対象の無料送迎、地域の祭りの復活等を実施

優秀賞

## No.13 北海道 札幌市

### 株式会社ファーストマインド

- ・JA等と連携した地域の農作業の受託に加えて、地域の水路の掃除、草刈り、除雪を障害者等が実施

フレッシュ賞

## No.14 静岡県 浜松市

### ひらまつファーム

- ・個人農家として、福祉事業所に作業委託を行うことで、栽培面積の拡大、収益向上を実現

フレッシュ賞

## No.16 高知県 安芸市

### 一般社団法人こうち絆ファーム

- ・障害者、ひきこもりの状態にある者、触法者等を受け入れ農業を実施し、新規就農者も誕生

フレッシュ賞

## No.18 北海道 当別町

### 社会福祉法人ゆうゆう

- ・障害者、ひきこもりの状態にある者、認知症高齢者、地域住民等が農業や林業を通して交流

チャレンジ賞

## No.21 奈良県 橿原市

### 一般財団法人かがやきホーム

- ・奈良県が設立した更生支援施設で、刑務所出身者を雇用し、森林組合等で研修を実施

チャレンジ賞

## No.24 沖縄県 北中城村

### 合同会社ソルファコミュニティ

- ・荒廃農地を再生して、障害者が国内で珍しいバニラ栽培を実施。地域の中心経営体として位置づけ

チャレンジ賞



- ノウフクJASは、障害者が生産行程に携わった生鮮食品、これを原材料とした加工食品、障害者が生産行程に携わった観賞用の植物を規格化したもの。
- ノウフクJASの商品は、エシカル消費(地域の活性化や雇用などを含む、人・社会、地域、環境に配慮した消費行動)に関心のある消費者への訴求が期待される。



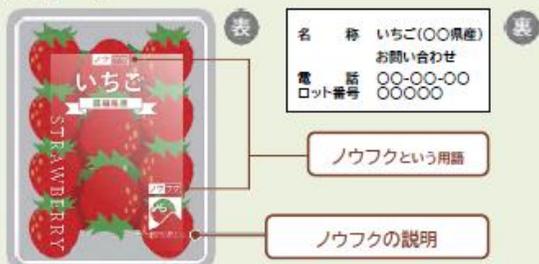
くわしくは  
こちら！



## ノウフクJASの規格等の内容

### ノウフク生鮮食品、観賞用の植物

- 農林水産物の主要な生産行程に障害者が携わっていること
- 障害者が携わった生産行程を記録し、回答できること 等



## ノウフクJAS取得事例

### 株式会社ウィズファーム(長野県松川町)

2019年11月1日認証(第1号)

- 農業を通じた障がい者の工賃向上をめざして、りんごやぶどう等を生産。
- 個々の特性に応じた作業分解を通じて、生産行程のほとんどに障がい者が従事。
- ノウフクJASを取得したりんごジュースが大手リゾートホテル等で取り扱われ、品質の高さとともに、生産されている背景を含めて高い評価。



## エシカル消費との関係

エシカル消費の要素※

人・社会

地域

環境

農福連携の商品の特徴

障害者の自信や  
生きがいの創出

地産地消への貢献

環境等に配慮した  
持続可能な農業の推進

※消費者庁「エシカル消費特設サイト」を参考に作成

### ノウフク加工食品

- ノウフク生鮮食品を少なくとも1種類以上使用すること等

ノウフクという用語とその説明

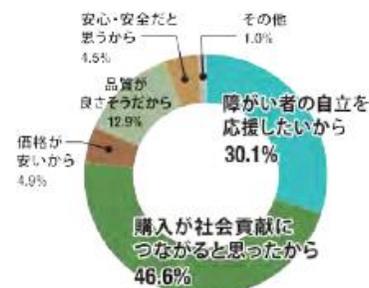
ノウフクいちご100%使用いちごジャム

+

ノウフク生鮮食品を  
原料に使用している旨 等



消費者が農福連携の商品を買いたいと考える理由



# 『農山漁村振興交付金(農福連携型)』支援地区【H29～R6】

